

# 内灘町弓道協会の「お宝」が増えました！

その「お宝」が生まれた歴史的な日は、2025年4月末、小雨の降る少し肌寒い夜のこと。木屋輝明四段の放った矢が、確実に的の中心を捉える軌道を描きながらも、的紙を破るいつもの的中音は聞こえなかった。「ん？今の音、ナニ？中ったと思うんだけどなあ…」と、木屋さんは違和感を覚えたという。

そして、矢取りに行った弓友が小躍りして手を叩き喜んでいた。見事な「継矢」だった。

継矢とは、先に的に中った矢の筈に、後から射た矢が突き刺さり、2本の矢があたかも1本の矢のように一直線につながってとどまっている状態だ。

滅多に起こらない「奇跡」のような瞬間で、ゴルフで言うとホールインワン、野球で言うとノーヒットノーラン完全試合、バスケットで言うとブザービーターで逆転シュート、麻雀で言うと国士無双十三面待ちツモ、買い物で会計金額が財布の中の所持金とピッタリ一致するような...と、並べ出すとだんだん有り難みが減ってしまうのだが、とにかく長く語り継がれる光栄なことである。

ただ、当協会ではこの継矢を「お宝」としてガラスケースに入れ、道場に飾っているため、本人はその2本の矢を協会に献上する習わしとなっている。結果、2本分買い足さなければならないという想定外の出費が発生し、懐事情の悩ましい事態とも言える。

そんな訳で、写真は、周りが破顔の祝福ムードなのに対し、本人はガックリ来ている様子。哀愁漂う木屋さん。



ちなみに、当協会の歴代の継矢は

1985年01月06日 小田春夫 四段  
1993年07月29日 北川亮 五段(於 県武)  
2001年12月09日 橋本英子 錬士五段  
2002年05月02日 野島多恵子 錬士六段  
2011年11月06日 竹内孝夫 四段  
2025年04月23日 木屋輝明 四段 ←今ココ

過去5回の間隔は、8年・8年・半年・9年となっていて、  
前回の2011年からは13年が経過していたので、  
「確率的にはもうそろそろ誰かが継矢する頃・・・」と皆が思っていた。  
何なら「我こそが...」と密かに思っていた人も少なくないはずだが...



先日、木屋さんの継矢もめでたくケースに入り、道場の壁に飾られている。  
1つのケースに3本ずつ入っていて、現在満席。なので次回はケースも新調しなければいけないのが課題だが、確率的には10年先だ。  
「次はいつ、どんな弓引きがここに名を連ねるのだろうか？」なんて未来のことを考えるとワクワクしてくる。  
いや、ひょっとして、明日にも誰かが継矢をするかも知れない。

そんな「お宝」。内灘町弓道場にお越しの際には是非ご高覧いただければ。